

教育課程等の概要（事前伺い）														
(工学部宇宙システム工学科)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
工学系総合科目	工学倫理	3・4	1			○								兼1
	工学と環境	3・4	1			○								兼1
	安全工学	3・4		1		○								兼1
	知的財産権	3		1		○								兼1
	キャリア形成入門	2・3前		2		○								兼14 オムニバス
	インターンシップ実習	2・3		1				○						兼1
	海外研修Ⅰ	1・2・3・4		1				○						兼1
	海外研修Ⅱ	1・2・3・4		2				○						兼1
	海外インターンシップ実習	1・2・3・4		2				○						兼1
	理数教育体験	1・2・3・4		1				○						兼1
	サービスラーニングⅠ	1・2・3・4		1				○						兼1
	サービスラーニングⅡ	1・2・3・4		1				○						兼1
小計（12科目）	—		2	13		—							兼23	
工学系他分野科目	機械知能工学概論A	3・4		1		○								兼2 オムニバス
	機械知能工学概論B	3・4		1		○								兼2 オムニバス
	建設社会工学概論A	3・4		1		○								兼8 オムニバス
	建設社会工学概論B	3・4		1		○								兼8 オムニバス
	電気電子工学概論A	3・4		1		○								兼6 オムニバス
	応用化学概論A	3・4		1		○								兼8 オムニバス
	マテリアル工学概論A	3・4		1		○								兼1
	生命体工学概論A	3・4		1		○								兼8 オムニバス
	生命体工学概論B	3・4		1		○								兼8 オムニバス
	小計（9科目）	—			9		—							兼51
工学基礎科目	解析学A	1前	4			○								兼6
	解析学B	1後		2		○								兼6
	線形数学A	1前	2			○								兼4
	線形数学B	1後		2		○								兼4
	微分方程式	1後		2		○								兼4
	複素解析学	2後		2		○								兼3
	統計学	2前	2			○								兼3
	物理学Ⅰ	1前	4			○								兼5
	物理学ⅡA	1後・2前		2		○								兼4
	物理学ⅡB	1後・2前		2		○								兼3
	基礎量子力学	2後		2		○								兼4
	物理学実験	1後	0.5					○						兼10
	化学Ⅰ	1前	2			○								兼5
	化学Ⅱ	1後		2		○								兼4
	化学実験	1前・後	0.5					○						兼5
	解析力学・剛体力学	2後		2		○								兼1
	量子力学	3前		2		○								兼1
	統計力学	3後		2		○								兼1
	数値解析法	3前		2		○				1				兼2
	機械知能工学入門	1前		1		○								兼1
	機械構造の力学入門	1後		1		○				1				兼1
	宇宙システム工学入門	1後		1		○				5	2			兼1
	計測制御入門	1後		1		○								兼3
	三次元CAD入門	1前		2		○								兼1
電気電子工学序論	1前		1		○								兼4 オムニバス	
電気電子工学実験入門	1前		1				○						兼7	
マテリアル工学入門	1後		2		○								兼11	
マテリアル工学基礎Ⅰ	1後		2		○								兼1	

	マテリアル工学基礎Ⅱ	1後		2		○												兼1	
情報系科目	情報リテラシー	1前	2			○			1									兼4	
	情報PBL	1後	2			○			1									兼4 ※演習	
	情報処理基礎	2前	2			○												兼1	
	情報処理応用	2後	2			○												兼1	
	小計 (33科目)	—	23	38				0	6	2								兼82	
専門科目	宇宙工学専門科目	宇宙システム利用	2前		2		○		1									兼2	
		宇宙システム環境	2前		2		○		1									兼2	
		システム工学	2前	2			○			1									
		ロケット・衛星システム工学	3後		2		○			1									
		軌道力学	2前	2			○			1									
		飛行力学	2後	2			○			1									
		画像処理基礎	2後		2		○			1									
		宇宙材料学	3前		2		○				1								
		飛行制御	3前		2		○			1									
		宇宙エネルギー・推進工学	3前		2		○			1	1								
		宇宙構造工学基礎	3後		2		○			2									
		ロケット推進工学	3後		2		○												兼1
		システム工学演習	2後	2				○		1	1								
	宇宙工学実験	3前	1					○	5	2			2						
	宇宙工学PBL	3後	1					○	5	2			2						
	機械系基礎・専門科目	流体力学基礎	2前		2		○												兼1
		流体力学	2後		2		○												兼1
		圧縮性流体力学	3前		2		○												兼1
		熱力学Ⅰ	2前		2		○												兼1
		熱力学Ⅱ	2後		2		○												兼2
		伝熱学	3前		2		○												兼2
		燃焼工学	3後		2		○												兼1
		メカと力学	2前		2		○												兼1
		機械力学Ⅰ	2後		2		○												兼1
		制御工学基礎	2後		2		○												兼1
		機械力学Ⅱ	3前		2		○												兼1
		材料力学Ⅰ	2前		2		○			1									兼1
		材料力学Ⅱ	2後		2		○			1									兼1
		機械材料学	2後		2		○												兼1
		弾塑性力学	3前		2		○												兼1
		材料強度	3前		2		○												兼1
		トライボロジー	3後		2		○												兼1
		生産工学基礎	2前		2		○												兼1
		機械工作法Ⅰ	2後		2		○												兼1
		機械工作法Ⅱ	3前		2		○												兼1
	設計製図Ⅰ	2前	1						○	1								兼2	
	設計製図Ⅱ	3前	1						○									兼5	
	機械工作法実習	2前	1						○									兼1	
	機械工学実験Ⅰ	2後	1						○	2			1					兼8	
	設計工学Ⅰ	3前	2			○												兼1	
	設計工学Ⅱ	3後	2			○												兼1	
	デジタルエンジニアリング演習	3後	2				○											兼1	
	電気電子系基礎・専門科目	電気回路Ⅰ	2前		2		○												兼2
電気回路Ⅱ		2前		2		○												兼2	
電気回路Ⅲ		2後		2		○												兼2	
電気回路演習		2後	1				○											兼3	
電子回路Ⅰ		2前	2			○				1								兼1	
電子回路Ⅱ		2後	2			○												兼2	
電子回路演習		3前	1				○											兼3	
パワーエレクトロニクス		3後	2			○												兼1	
電磁気学Ⅰ		2前	2			○												兼2	
電磁気学Ⅱ		2前	2			○												兼2	
電磁気学Ⅲ	2後	2			○												兼2		
電磁気学演習	2後	1				○											兼3		

半導体デバイス	2前	2	○								兼2
デジタル回路設計法	3前	2	○								兼3
電気電子材料	3後	2	○								兼1
論理回路	2前	2	○								兼2
組み込みシステム工学	3前	2	○								兼1
制御システム工学	3前	2	○								兼1
信号処理Ⅰ	3前	2	○								兼1
信号処理Ⅱ	3後	2	○								兼1
通信基礎	3前	2	○								兼1
電波工学	3後	2	○								兼1
センサー・インターフェース工学	3後	2	○								兼1
移動通信及び法規	4前	2	○								兼1
電気電子工学実験	2前	1				○					兼6
卒業研究	4通年	5				○	6	2			
小計 (68科目)	—	15	114	—			6	2		2	兼54
合計 (122科目)	—	40	174	—			6	2		2	兼196
学位又は称号	学士 (工学)	学位又は学科の分野		工学関係							
設置の趣旨・必要性											
<p>I 改組の趣旨・必要性 (背景・必要性)</p> <p>九州工業大学は、建学の理念「技術に堪能なる士君子の養成」を百年余に亘って継承し、社会的要請を鋭敏に教育に反映して、急激に変遷する時代が求める技術者・研究者を輩出し、我が国の産業の発展に貢献してきた。これまで先進的な大学教育改革等において実績を上げてきており、高度産業技術者を育成する教育内容や輩出する人材は社会的にも認知されている。</p> <p>工学部では、「ものづくり」を基盤とした工学系分野において、豊かな教養、技術者倫理及びコミュニケーション力を備え、科学技術の進歩に対応できる工学基礎力・専門技術力を有し、国際的に活躍できる専門技術者を養成している。</p> <p>近年、「国立大学改革プラン」(平成25年11月文部科学省)等を受け、「ミッションの再定義」等を踏まえた強み・特色の重点化、グローバル化、イノベーション創出、人材養成機能の強化を視点とする「機能強化」の取組が進められており、第3期中期目標期間において、強み・特色を最大限に生かし、高い付加価値を生み出す国立大学への転換が求められている。</p> <p>また、「理工系人材育成戦略」(平成27年3月文部科学省)においても、重点項目として「国立大学における教育研究組織の整備・再編等を通じた理工系人材の育成」があげられ、ミッションの再定義を踏まえた強み・特色の伸長が求められているところである。</p> <p>「ミッションの再定義」において示した本学の強みの1つである航空宇宙分野については、「宇宙基本計画」(平成28年4月閣議決定)において、宇宙政策の目標として「宇宙を活用した地球規模課題の解決と安全・安心で豊かな社会の実現」、「関連する新産業の創出」、宇宙政策の推進に当たっての基本的なスタンスとして「宇宙利用による価値の実現(出口戦略)を重視」が掲げられている。また、「『豊かで活力ある日本』の再生」(平成27年1月日本経済団体連合会)では、「時代を牽引する新たな基幹産業」の1つとしてあげられるなど、今後、宇宙利用を担う人材、システムを俯瞰する人材等への産業界からの需要の拡大が見込まれる。</p> <p>一方、国外においても、新興国を中心として宇宙新規参入欲が旺盛になっていることを背景に、国連と連携した本学の大学院宇宙工学国際コースへの留学希望者が急増している。</p> <p>また、本学工学部が立地する北九州市では、1901年官立八幡製鉄所の鉄鋼産業に始まり、素材産業、ロボット産業、環境、プラントエンジニアリング、機械・金属加工産業と「ものづくり」における多様な展開が進められてきた。この多様な基盤産業技術の高度化が先端技術へ応用されるポテンシャルは高く、応用先として航空宇宙関連産業が期待されている。</p> <p>以上を背景に、本学の強み・特色を伸長するとともに、時代を牽引する新たな基幹産業である航空宇宙分野の人材養成機能を強化するため、工学部に「宇宙システム工学科」を新設する。</p>											
<p>II 教育課程編成の考え方・特色 (養成人材像)</p> <p>工学部では、これからの地球や生活環境に調和した技術を創出し、社会に貢献する人を世に送り出すために、幅広い教養、豊かな人間性、技術者としての高い倫理観、そしてグローバル社会で活躍できるコミュニケーション能力を備えた技術者を養成する。このため、専門知識を習熟するのはもちろん、豊かな感性、幅広い教養、国際的な視野を備えた、次のような能力・技術・意欲を養成している。</p> <p>① 科学技術に対する理解力と新たな問題を自ら解決する能力 ② 産業の発展に寄与できる技術、特に製造業が多い地域性を考慮した高度なものづくり技術 ③ 高度で幅広い知識へのためまね学習意欲</p> <p>新設する宇宙システム工学科では、宇宙システムを代表とする、様々な分野における複雑な工学システムの創生、研究開発、製造、運用を担える人材の養成を目指している。</p>											

(教育の達成目標)

- 1(a) 宇宙システムの各構成要素（データ処理・構造・推進・通信等）の基本的な機能と設計思想並びに相互の繋がりを理解する。
- 1(b) 宇宙システムのハードウェア、ソフトウェアがどのように設計され、プロジェクトがどのように実施されるべきか理解する。
- 1(c) システム及びプロジェクト全体を俯瞰できる視野を身につける。
- 2(a) リーダーだけでなく、チームの一員としてもプロジェクトに貢献できるようになる。
- 2(b) 宇宙システムのある特定分野の専門家となる素地を身につける。
- 2(c) 他の複雑な工学システムの分野で活躍できる素地を身につける。

(教育課程編成の考え方)

上記の達成目標2のため、「機械宇宙システム工学」及び「電気宇宙システム工学」の2つの履修コースに区分し、各コースで機械・電気分野に重みを付ける。

授業科目は、工学基礎、工学総合、宇宙工学専門科目群、機械系基礎・専門科目群、電気系基礎・専門科目群、材料系基礎科目群に区分し、達成目標1を宇宙工学専門科目群、機械系及び電気系基礎科目群で達成する。達成目標2を宇宙工学専門科目群、機械系又は電気系専門科目群で達成する。

人類のフロンティアの拡大や産業振興、並びに国際社会の発展に貢献できる、グローバルな視野を持った宇宙開発利用を可能にする宇宙システム工学の専門教育を行う。そのため、履修コース別の基礎教育（※）を行ったうえで、PBLを通じたシステム工学・プロジェクトマネジメント、並びに宇宙利用・宇宙材料・宇宙環境・軌道力学・推進・通信・流体・熱構造・誘導制御・電子回路・電子物性といった各種要素技術に関する教育を行う。

※履修コース別の基礎教育

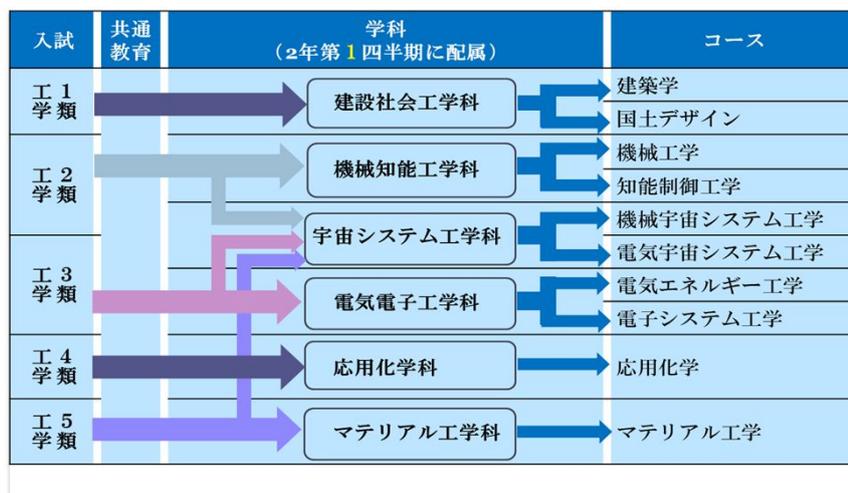
- ・機械宇宙システム工学コース：材料力学、熱力学、流体力学、機械力学、機械材料等の機械工学に関する基礎教育
- ・電気宇宙システム工学コース：電気回路、電磁気学、電子回路、半導体、電気電子材料等の電気工学に関する基礎教育

宇宙工学に関する専門科目を学ぶと同時に、システムエンジニアリングやプロジェクトマネジメントを講義やPBL等を通じて学ぶことにより、宇宙システムを題材として、複雑なシステムをどのように作り、プロジェクトをどのように実施するかを学びつつ、システム及びプロジェクト全体を俯瞰できる資質を身に付ける教育課程としている。

(中括り入試と共通教育後の学科配属)

学生の適性を見極めた専門分野決定を可能とするため、中括り入試と共通教育後の学科配属を導入する。学生募集区分を、工学における基盤的な5つのコアカリキュラムにより5類（1類：建設社会、2類：機械、3類：電気、4類：化学、5類：材料）に区分し、宇宙システム工学科には、2類・3類・5類から進級可能とする（下図参照）。

〔適性の自己評価による主体的な学科・コース選択〕



入学者は、まず1年生で「類」に所属し、応用性の高い基礎知識と複眼的視野を養成する共通教育（グローバル教養科目、自然科学に関する科目、情報に関する科目）を受講する。2年生進級時に適性や興味などに応じた進路を選択し、「学科」に進み、専門的な学修を行う。

宇宙システム工学科においては、2年次以降、機械工学に興味を持って2類に入学した学生を機械宇宙工学コース、電気電子工学に興味を持って3類に入学した学生を電気宇宙工学コースに受け入れるとともに、5類入学者にも進学の手続きを認める。学科配属に当たっては、学生本人の希望及び成績を考慮して配属先を決定する。

宇宙システム工学科以外の学科においても、2年次以降コースに分かれており、コース名は学びの分野が見えるように設定しているため、大学院への接続が円滑になり基礎から専門知識を習得でき、現代の社会的ニーズにこたえられる実践的な技術と問題解決力、コミュニケーション能力を身に付けて行く。

(教育課程の特色)

建学の理念「技術に堪能なる士君子」の養成に基づいて専門教育及び、一般教育をともに重視した次のような教育を行うのが、本学工学部の教育課程の特色である。

- ① バランスのとれた科目の配置：工学部では、独自のカリキュラムにより、専門科目を1年生から少しずつ学ぶことができる。基礎的な専門授業を用意し、学問への興味を徐々に高めていくカリキュラムにしている。
- ② ものづくりを重視した授業：工学部のある北九州市は、1901年に八幡製鐵所が操業されるなど、日本近代産業の歴史と伝統のある地域である。ものづくり技術の伝統が受け継がれ、科学技術に理解のある土地に立地する大学だからこそ、ものづくりを重視した授業に力を入れている。
- ③ 大学院との連携を視野に入れた教育内容：工学部では、約6割の学生が大学院に進学しており、進学希望の学生をバックアップするため、大学院とのスムーズな連携に配慮したカリキュラムを用意している。たとえば大学4年生で受講する授業の応用編を大学院で行うなど、無理なく学べるカリキュラムにより、学生の高度な学習意欲にも高いレベルで応えることができる。

宇宙システム工学科では、宇宙工学をキーワードに、必要な基盤知識を機械工学及び電気電子工学と位置付けて、1・2年次にそれぞれの基盤を修得する。基盤となる工学知識の上に、他分野を身に付け、小型ロケット、超小型衛星などの宇宙機器設計、製作、評価を通して、融合分野としての宇宙工学に必要な知識、及び複雑な工学システムの創成、研究開発、製造、運用に必要な能力を修得する教育課程である。

3年次の必修科目である宇宙工学PBLでは、小型ロケットの打ち上げとそれに伴うミッションの達成、風船宇宙撮影等の本格的な実践型教育を実施する。JAXAとの連携等を活かした、他組織では実施できない教育課程の特色である。

また、大学院工学府では、国連と連携した宇宙工学国際コースや、産学連携によりプロジェクト・リーダー型博士技術者を育成する博士前期後期一貫プログラム(ProST)等、本学の強みである航空宇宙分野の人材育成を推進している。「宇宙システム工学科」では、大学院教育との円滑な接続のため、その基盤としての機械工学・電気電子工学及び宇宙システム工学を修得する教育課程としている。

学位又は称号	学士(工学)	学位又は学科の分野	工学関係
--------	--------	-----------	------

卒業要件及び履修方法	授業期間等
------------	-------

<b>【機械宇宙システムコース】</b> 教養教育科目20単位(人文社会科目6単位、グローバル教養科目4単位、選択必修英語科目6単位、初修外国語科目2単位、選択必修英語科目・初修外国語科目から左に加え2単位)、必修科目56単位、工学系他分野科目から1単位、工学基礎・専門科目の選択科目、人文社会系選択科目、選択英語科目、工学系他分野科目から47単位以上を修得し、124単位以上修得すること。  ※機械系基礎・専門科目のうち、機械宇宙システム工学コースの必修科目：流体力学基礎・流体力学・熱力学Ⅰ・機械力学Ⅰ・材料力学Ⅰ・材料力学Ⅱ・設計製図Ⅰ・設計製図Ⅱ・機械工作法実習・機械工学実験Ⅰ  <b>【電気宇宙システムコース】</b> 教養教育科目20単位(人文社会科目6単位、グローバル教養科目4単位、選択必修英語科目6単位、初修外国語科目2単位、選択必修英語科目・初修外国語科目から左に加え2単位)、必修科目55単位、工学系他分野科目から1単位、工学基礎・専門科目の選択科目、人文社会系選択科目、選択英語科目、工学系他分野科目から48単位以上を修得し、124単位以上修得すること。  ※電気電子系基礎・専門科目のうち、電気宇宙システム工学コースの必修科目：電気回路Ⅰ・電気回路Ⅱ・電子回路Ⅰ・電子回路Ⅱ・電磁気学Ⅰ・電磁気学Ⅱ・半導体デバイス・電気電子工学実験  (履修科目の登録の上限：46単位(年間))	1学年の学期区分	2学期
	1学期の授業期間	15週
	1時限の授業時間	90分

## 教育課程等の概要(事前伺い)

(別紙: 全学共通 教養教育科目)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
人文社会科目	哲学Ⅰ	1・2・3前後		1		○									兼1
	哲学Ⅱ	1・2・3前後		1		○									兼1
	倫理学Ⅰ	1・2・3前後		1		○									兼1
	倫理学Ⅱ	1・2・3前後		1		○									兼1
	教育学Ⅰ	1・2・3前後		1		○									兼1
	教育学Ⅱ	1・2・3前後		1		○									兼1
	一般言語学Ⅰ	1・2・3前後		1		○									兼1
	一般言語学Ⅱ	1・2・3前後		1		○									兼1
	文学Ⅰ	1・2・3前後		1		○									兼1
	文学Ⅱ	1・2・3前後		1		○									兼1
	歴史学Ⅰ	1・2・3前後		1		○									兼2
	歴史学Ⅱ	1・2・3前後		1		○									兼1
	地域研究Ⅰ	1・2・3前後		1		○									兼2
	地域研究Ⅱ	1・2・3前後		1		○									兼2
	文化史Ⅰ	1・2・3前後		1		○									兼1
	文化史Ⅱ	1・2・3前後		1		○									兼1
	地理学Ⅰ	1・2・3前後		1		○									兼1
	地理学Ⅱ	1・2・3前後		1		○									兼1
	科学史	1・2・3前後		1		○									兼1
	法学Ⅰ	1・2・3前後		1		○									兼2
	法学Ⅱ	1・2・3前後		1		○									兼2
	日本国憲法Ⅰ	1・2・3前後		1		○									兼2
	日本国憲法Ⅱ	1・2・3前後		1		○									兼2
	経済学Ⅰ	1・2・3前後		1		○									兼1
	経済学Ⅱ	1・2・3前後		1		○									兼1
	経営学Ⅰ	1・2・3前後		1		○									兼1
	経営学Ⅱ	1・2・3前後		1		○									兼1
	社会学Ⅰ	1・2・3前後		1		○									兼2
	社会学Ⅱ	1・2・3前後		1		○									兼2
	政治学Ⅰ	1・2・3前後		1		○									兼1
	政治学Ⅱ	1・2・3前後		1		○									兼1
	職業と社会	1・2・3前後		1		○									兼1
	心理学Ⅰ	1・2・3前後		1		○									兼2
	心理学Ⅱ	1・2・3前後		1		○									兼2
	健康スポーツ科学論	1・2・3前後		1		○									兼3
	スポーツ実技	1・2・3前後		1					○						兼8
小計(36科目)		—		36		—								兼33	
グローバル教養科目	異文化間コミュニケーション論	1・2・3前後		1		○									兼1
	西アジア論	1・2・3前後		1		○									兼1
	言語類型論	1・2・3前後		1		○									兼1
	西洋近現代史	1・2・3前後		1		○									兼1
	東南アジア文化論	1・2・3前後		1		○									兼1
	心理適応論	1・2・3前後		1		○									兼1
	東アジア論	1・2・3前後		1		○									兼1
	国際関係論	1・2・3前後		1		○									兼1
	国際経済論	1・2・3前後		1		○									兼1
	国際経営論	1・2・3前後		1		○									兼1
	サステイナビリティ論	1・2・3前後		1		○									兼1
	科学技術の社会史	1・2・3前後		1		○									兼1
	日本近現代史	1・2・3前後		1		○									兼1
	日本文学	1・2・3前後		1		○									兼1
	コンピテンシー論	1・2・3前後		1		○									兼1
ICTと現代社会論	1・2・3前後		1		○									兼1	
日本社会論	1・2・3前後		1		○									兼1	

教養教育科目	小計 (17科目)	—	17	—						兼17
	哲学と現代Ⅰ	2・3・4前後	1	○						兼1
	哲学と現代Ⅱ	2・3・4前後	1	○						兼1
	西洋社会史	2・3・4前後	1	○						兼1
	日本政治論Ⅰ	2・3・4前後	1	○						兼1
	日本政治論Ⅱ	2・3・4前後	1	○						兼1
	教育システム論	2・3・4前後	1	○						兼1
	経営組織論	2・3・4前後	1	○						兼1
	リレーセミナー	2・3・4前後	1	○						兼4
	言語分析法	2・3・4前後	1	○						兼1
	情報倫理	2・3・4前後	1	○						兼1
	ゲーム理論	2・3・4前後	1	○						兼1
	情報社会と教育	2・3・4前後	1	○						兼1
	現代社会論	2・3・4前後	1	○						兼1
	情報メディアとコミュニケーション	2・3・4前後	1	○						兼1
	発達心理学	2・3・4前後	1	○						兼1
	選択日本事情ⅠA	2・3・4前後	1	○						兼1
	選択日本事情ⅠB	2・3・4前後	1	○						兼1
	選択日本事情ⅡA	2・3・4前後	1	○						兼1
	選択日本事情ⅡB	2・3・4前後	1	○						兼1
	国際協働演習	2・3・4前後	1	○						兼4
小計 (20科目)	—	20	—						兼17	
選択必修英語科目	英語ⅠC	1前	1	○						兼20
	英語ⅡC	1前	1	○						兼18
	英語ⅢC	1後	1	○						兼3
	英語ⅣC	1後	1	○						兼10
	英語ⅤC	1後・2前	1	○						兼18
	英語ⅥC	1後・2前後	1	○						兼8
	英語ⅦA	2前後・3前	1	○						兼2
	英語ⅦB	2・3前後	1	○						兼1
	英語ⅦC	2・3前後	1	○						兼10
	英語ⅦD	2・3前後	1	○						兼10
	英語ⅧA	2後・3前後	1	○						兼7
	英語ⅧB	2後・3前後	1	○						兼2
	英語ⅧD	2後・3前後	1	○						兼5
	英語ⅨA	3前後	1	○						兼2
	英語ⅨB	3前後	1	○						兼2
	英語ⅨD	3前後	1	○						兼2
小計 (16科目)	—	16	—						兼46	
選択英語科目	選択英語 1T	1・2・3・4	1	○						兼2
	選択英語 2T	1・2・3・4	1	○						兼2
	選択英語 3T	1・2・3・4	1	○						兼2
	選択英語 4T	1・2・3・4	1	○						兼2
小計 (4科目)	—	4	—						兼8	
初修外国語科目	ドイツ語Ⅰ	1前後	1	○						兼6
	ドイツ語Ⅱ	1後・2前	1	○						兼7
	ドイツ語Ⅲ	2・3前後	1	○						兼6
	ドイツ語Ⅳ	2後・3後	1	○						兼1
	中国語Ⅰ	1前後	1	○						兼7
	中国語Ⅱ	1後・2前	1	○						兼6
	中国語Ⅲ	2・3前後	1	○						兼6
	中国語Ⅳ	2後・3後	1	○						兼3
	フランス語Ⅰ	1前後	1	○						兼4
	フランス語Ⅱ	1後・2前	1	○						兼4
	フランス語Ⅲ	2・3前後	1	○						兼4
	フランス語Ⅳ	2後・3後	1	○						兼2
	韓国語Ⅰ	1前	1	○						兼1
	韓国語Ⅱ	1後	1	○						兼1
	韓国語Ⅲ	2前・3前	1	○						兼2
	韓国語Ⅳ	2後・3後	1	○						兼2
小計 (16科目)	—	16	—						兼40	
合計 (109科目)	—	109	—						兼133	